

令和元年度 育て！サブ管ワーキング 振り返り・評価シート

R2年2月10日作成

【活動方針】

H30年度の研修会のモニタリングを実施して効果等の確認を行い、H31年度の研修会実施につなげる。

【取り組み内容】 ※具体的な活動内容及び結果を記載する

開催回数	5回	開催月	6、7、8、12、2月
<p>・H30年度に実施した研修会のモニタリングとして、当初は参加者に来ていただきヒアリングを予定していたが、異動等もあるため、研修終了後のアンケートと復命書からモニタリングを行った。</p> <p>・それを受けて、研修会が有益のあるものであることを確認し、今年度も研修会を実施する方向で決まる。内容としてはH30年度のブラッシュアップではなく、同様の内容を実施して、サブ管を担う職員を増やしていくことで方向性が決まる。</p> <p>・令和2年1月27日(月)に育てサブ管研修会を実施。2月に今年度の振り返りと評価を実施した。</p>			

【メンバーの感想・意見（協議会活動を通じての振り返り）】

協議会での活動を通じての成果や気付き、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、協議会の運営や体制に関する課題・意見等。

<p>・研修目的と内容を前年と同様にしたため、講義内容もある程度固定した構成にでき、ワーキング回数もコンパクトにできて良かった。</p> <p>・‘どこで誰と暮らしたいか’の地域移行の視点を、身障だけでなく他の機関にも広げていき、障害分野の職員が共通認識として持てると良い。それには継続的な取り組みが必要であり、どこが担っていくのかが課題。地域生活支援拠点の専門的人材の養成機能などと連動できると良い。</p> <p>・サービス管理責任者ネットワーク研修会が年1回、圏域単位で開催しているため、そことリンクできると効率的なのではないか。</p> <p>・2年間で実施した成果を運営会議、地域づくり部会、福祉課、基幹センターへ報告し、効果と必要性を報告して終了という形がベターなのではないか。</p>

協議会の機能： 情報機能、調整機能、開発機能、教育機能、権利擁護機能、評価機能

【来年度の取り組みについて】

継続する場合（モニタリングも含む）	
活動方針（案）	
取り組み内容	
引き継ぎ事項等	

終了する場合	
理由等	地域移行の視点を持って支援にあたる職員(サービス管理責任者に準ずる職員として通称サブ管)の養成を目的とし、2年間研修会を実施した。アンケートと復命書から効果の確認はできたが、今後もワーキングで継続的に担っていくことは難しい。研修内容と効果をサービス管理責任者ネットワーク研修会や、運営会議、地域づくり部会、福祉課へ報告し、継続的な取り組みの必要性を伝えていく。